

カンテフラメンコの名門 アグヘタファミリー三男ディエゴ・アグヘタ来福公演

DIEGO AGUJETAS



ディエゴ・アグヘタ

1945 年生まれ。カンテ・フラメンコの名門アグヘタファミリーの三男。
普段は車の板金をしている。
七色に変化する奇跡の声の持ち

主である。

アンダルシア地方のヘレス市（フラメンコの最も盛んな街として知られる）の権威ある賞、マヌエル・トウーレ賞を受賞。

数度の来日経験を持つ。

2004 年にはフジロックフェスティバルに出演し、その唄声でロックファンの度肝を抜いた。

愛妻家で、日本にいる間、妻イレネへの電話を欠かさない。

CHIAKI HORIKOSHI



堀越 千秋

1948 年東京生まれ。東京芸術大学大学院油画専攻修了。

76 年スペイン政府給費留学生として留学、以降スペイン在住。現代美術分野で活躍中。画業の他、執筆家としても著作多数。

昨年、西日本新聞にてエッセイ「世界のまなざしスペイン発」を好評連載。

アグヘタファミリーとの親交も深く、コンパドレ（義兄弟）の間柄である。カンテフラメンコの歌手としてのキャリアも長い、スペイン、日本の二カ国で活動。

ディエゴ・アグヘタと共に、2004年のフジロックフェスティバルにも出演。

LOS AGUJETAS



アグヘタファミリー

スペインはアンダルシア地方のヘレスで活躍するカンテフラメンコのファミリー。

フラメンコという踊りのイメージであるが、スペインでは唄（カンテ）のことを指す。

それはヒターノ（ジプシー）のルーツミュージックであり、ヒターノ版ブルースといった存在である。

中でもLOS AGUJETAS はヒターノ 伝来の鍛冶屋唄を今に伝える、フラメンコの源流に位置する。

プロの歌手として生活しているのではなく、毎日を本来の職業（鍛冶屋、農夫、板金工、花売りなど）で賄う中、唄が生まれる。だからこそ、その叫びは真実を持つ。

MASATO WAKABAYASHI



若林 雅人

1965 年東京生まれ。20 代をアメリカ、スペイン、イギリスへの美術留学と旅に費やす。

どの都市へ行ってもフラメンコを想いつつ現在は東京在住。日本に住むフラメンコ好きの一人として、自らのグループを率いてステージに立つ。アート活動としては、ビデオアート上映プログラム「ブレイク・イン・シアター」を現代美術作家サキサトムと企画運営。これまでに東京国際フォーラム、水戸芸術館、広島市現代美術館、原美術館等で開催。自転車を利用した楽器「セニョーラ・アルハンブラ」の発明などカテゴリーに縛られない自由な発想で音楽とアートの間を走り続けている。

福岡EU協会5周年記念事業

アンダルシアのスパニッシュソング

カンテフラメンコライブ

●会場：アクロス福岡 円形ホール（右図参照）

●日時：10 月 23 日（月）

●値段：前売り 2,500 当日 3,000

●開場：19:00 開演：19:30

ディエゴ・アグヘタ、堀越千秋 [カンテ（唄）]

若林雅人 [ギター]

●共催：福岡EU 協会

●主催・問合せ：アフィションレコード 090-4468-1977 aficionrecord@estate.ocn.ne.jp

